



編集・発行

青少年赤十字岐阜

JUNIOR RED CROSS GIFU 2018



日本赤十字社 岐阜県支部
Japanese Red Cross Society

〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9
TEL 058-272-3561
<http://www.gifu.jrc.or.jp/>



赤十字の活動は、皆様からの社資で支えられています

～3つの実践目標～

- いのちと健康を大切にする（健康・安全）
 - 人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する（奉仕）
 - 広く世界の青少年を知り、なかよくたすけあう精神を養う（国際理解・親善）
- また、主体性を育むために「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げています。

新学習指導要領と 青少年赤十字活動

岐阜県青少年赤十字指導者協議会

会長 名 和 達 弘 （羽島市立堀津小学校長）



平成32年度から完全実施される新学習指導要領は、「急激な社会の変化で、予測困難な時代を迎える今日、変化に向き合い、課題解決や情報の再構成をし、新たな価値と目的を再構築するために、開かれた教育課程の展開が必要である」としました。そして、「何を理解しているか、できるか」と「理解したこと、できることをどう使うか」と併せて、「どう社会や世界と関わり、よりよく人生を送るか」を打ち出し、目指す資質・能力としての「生きる力」の育成をいっそう明確にしました。

そのような時、平成29年7月15日（土）～17日（月）の3日間、青少年赤十字の事業の一つである「子ども新聞プロジェクト」に参加する機会を得たAさんは、青少年赤十字メンバー11名（愛知7名、岐阜2名、三重2名）と、平成28年4月に発生した熊本地震の被災地を訪れ取材をしました。取材を終えたAさんは、「地震は、大切なものや歴史があるものを壊してしまうので、とても恐いなあとあらためて感じた。大切なものや歴史のあるものを残すためにも、しっかり防災訓練をしたり、建物を補強するなどの備えをしたりしておくことが大切だと思った。」と記事にまとめました。また、一緒に行ったBさんは、『友達がいること』や『家でゆっくり休めること』、そういう当たり前のことが当たり前じゃない人だって、何人もいる。普通に過ごしている毎日だけど、一日一日を大切にしたい。」と述べています。

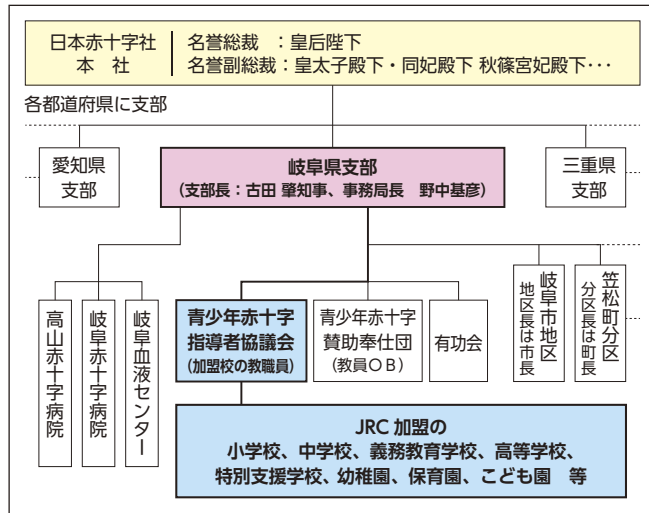
被災地を目の当たりにした2人のこの記事は、青少年赤十字が掲げる態度目標どおり、現状に「気づき」、備えることの重要性を「考え」、自らの日々を大切に過ごすという「実行する」につなげました。この姿は、新学習指導要領が示す「どう社会や世界と関わり、よりよく人生を送るか」の理念と一致するものです。学校教育に携わる私たちは、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、今一度各校で展開されている青少年赤十字の活動を振り返り、再認識・再構成・再構築することが求められると言えましょう。

最後に、今年度もご支援いただいた日本赤十字社岐阜県支部をはじめとする関係者の皆様に心より感謝申し上げますと共に、岐阜県の青少年赤十字活動がより一層広まり、活発に展開されることを祈念いたします。

1 赤十字社について

赤十字は、アンリー・デュナン(スイス人:第1回ノーベル平和賞受賞者)が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界191の国と地域に広がる赤十字社・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。

日本赤十字社はそのうちの一社であり、1877年の西南戦争をきっかけに佐野常民らが中心になって作られました。そして、現在では、世界各国の赤十字と手をつなぎ、赤十字の精神である「人道・博愛」の使命を実現するために、主に以下の①～③の柱のもと具体的な活動をしています。



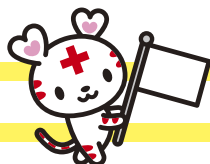
▲日本赤十字社組織図

- ① いのちを救う 国際活動、国内災害救護活動、医療事業、血液事業、救急講習等
- ② せいかつを支える 社会福祉事業、赤十字奉仕団
- ③ ひとを育む 青少年赤十字、看護師等養成

2 青少年赤十字 (JRC: Junior Red Cross) について

青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字のことを正しく理解し、進んで赤十字運動に参加してもらい、青少年の一人一人が世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、①「健康・安全」②「奉仕」③「国際理解・親善」の3つを「実践目標」として掲げ、日常生活の中で望ましい「人格と精神」を自らつくりあげていくことを目的としています。

3 日本赤十字社岐阜県支部が、青少年赤十字加盟校に対し行っている主な交付金や支援内容



ア 人材育成・・・JRCの活動を中心となって取り組むことのできる人材の育成。

- ① 教職員対象の指導者講習会
- ② 支部主催や各地区主催のリーダーシップ・トレーニング・センター (※1) の実施

イ 主な活動助成交付金

- ① 研究推進モニター校交付金・・・学校におけるJRC活動に対する交付金 (1校につき10万円 対象20校)
- ② 防災教育推進事業交付金・・・学校における防災教育推進に対する交付金 (1校につき20万円 対象2校)
- ③ 地区協議会活動交付金・・・地区単位での研修会、講習会等に対する交付金 (1地区につき上限8万円)
- ④ 各リーダーシップ・トレーニング・センターへの交付金

ウ 活動・支援等

- ① 子ども新聞プロジェクトやモンゴルとの国際交流への参加
- ② 救急法や水上安全法等への講師派遣
- ③ 「まもるいのち ひろめるぼうさい」「いえまですごろく」、図書、テント等、教材教具の無料提供
- ④ 募金活動
- ⑤ 赤十字フェアぎふ作品コンクールへの作品募集

※1 「リーダーシップ・トレーニング・センター」とは、集団生活や活動を通して児童・生徒が周囲の状況を踏まえ自分がどのように行動すると良いか「気づき・考え・実行する」力を育むもので、青少年赤十字の最も特徴的な教育プログラムです。

ア 人材育成関係の実績報告

① 指導者養成講習会

平成29年8月9日

「平成29年度岐阜県青少年赤十字指導者養成講習会 (岐阜県支部主催)」を開催し、県内のJRC加盟校の指導者(教員)37名が参加しました。

講習会では、ハイゼックスを使った非常食の作り方に挑戦したり、熱中症対策、骨折、捻挫等への応急手当を学んだりしました。午後からの講演では、～防災のプロが推奨する“真の”防災教育～の演題で、防災・減災センター岐阜大学特任教授の村岡治道先生から、大変有意義なお話を聞くことができました。



▲ハイゼックスを使っの昼食作り



▲三角巾の使い方講習

② 支部主催のリーダーシップ・トレーニング・センター 平成29年7月27日、8月16日

岐阜県支部が主催するリーダーシップ・トレーニング・センターとして、高校生対象の“高校トレセン”と、小中学生対象の“支部トレセン”を行いました。

高校トレセンでは、全国研修会に参加した大垣桜高校のメンバーによるグループワークや、助産師さんから「いのち」の尊さについてのお話を聞いたりしました。

支部トレセンでは、無線を使っの救護活動体験をしたり、岐阜地方気象台の職員の皆さんから気象メカニズムを教えていただいたり、気象実験を行ったりしながら、災害に対する知識を深めました。



▲高校トレセンでのアイスブレキング



▲助産師さんによる「いのち」についての講話 (高校トレセン)



▲支部トレセンでは、無線を使っの救護活動体験



▲岐阜地方気象台による気象実験 (支部トレセン)

③ 各地区で行われたリーダーシップ・トレーニング・センター

＜揖斐地区＞ 平成29年7月27日

揖斐川町地域交流センターで揖斐地区JRCトレセンを実施しました。揖斐郡の小中学校から48名の児童・生徒が参加しました。

学校紹介、救急救命法の講習会、レクリエーション講習会を行い、児童生徒が楽しく研修を行いました。



▲AED体験

＜大垣地区＞ 平成29年8月25日

大垣市スイトピアセンターで、大垣市内の児童・生徒64名が参加して行われました。午前には、『青少年赤十字について』や『三角巾の使い方』を学び、午後にはグループに分かれ、『車椅子』や『手話』の体験を行いました。お互いに声を掛け合いながら、楽しく、そして、真剣に多くのことを学びました。



▲三角巾の使い方

イ 活動助成関係の実績報告

⑪ 平成29年度岐阜県青少年赤十字研究推進モニター校

本事業では、青少年赤十字の実践活動の「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関わる様々な魅力ある活動が、加盟校においてさらに充実していくことや、県内に広まっていくことを願い、毎年加盟校の中から研究推進モニター校を募集し、認定した20校に各10万円の活動交付金を交付しています。

また、モニター校の実践は年度ごとに「活動事例集」としてまとめ、4月当初に県内すべての学校宛に配布予定です。

＜キックオフの会＞

モニター校となったことや新規加盟校になったことをきっかけに、子どもたちに青少年赤十字の具体的な目標や、自分自身はどのような役割を担うのか、どのような活動に取り組みればよいのか等を、校長先生や担当の先生からお話ししていただくことによって、青少年赤十字への意識を高められるようにすることを願って、「キックオフの会」を実施してもらいました。



▲キックオフの会の一コマ

⑫ 青少年赤十字防災教育推進事業（平成30年度からの新規事業）

日本赤十字社岐阜県支部では、青少年赤十字の実践目標の一つである「健康・安全」のもと、防災教育を通して学校、家庭、地域社会における防災意識を高め、人間のいのちと健康、尊厳を守ることを目指しています。

その達成に向けて、「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用しながら、防災教育の発展・普及のため、先進的な取り組みを実践する学校を推進校に指定し、活動を支援します（1校20万円）。

H30年度の推進校は、次の2校です。

岐阜市立陽南中学校	地域との関わりのなかで、防災について、私たち中学生にできることを考えよう
美濃加茂市立伊深小学校	自分の命は自分で守ることができる子を育てる

平成30年度 岐阜県青少年赤十字研究推進モニター校の決定

H29.11.17～H30.1.19の期間、H30年度の研究推進モニター校を募集しました。岐阜県青少年赤十字協議会地区会長、賛助奉仕団の皆さんに検討していただき、下記のとおりH30年度のモニター校に指定させていただきました。

No.	学校名	主たる実践目標	テーマ
1	岐阜市立岩野田北小学校	安全	「命」の大切さがわかり、地域と共によりよく生きる子ども
2	各務原市立那加第三小学校	健康・奉仕	自ら考え行動する子
3	各務原市立八木山小学校	奉仕	人・地域とのふれあいを通して、思いやりや助け合いの心を育てる
4	大垣市立青墓小学校	奉仕	自分に自信を持ち、ふるさとを誇りに思う子の育成
5	海津市立城山小学校	奉仕	地域とともに歩み、地域と学校とをつなぐ教育 ～子どもも親も地域もhappyな学校づくり～
6	不破郡垂井町立東小学校	奉仕	地域と共に歩む子の育成
7	郡上市立川合小学校	奉仕	ふるさと川合地区の福祉についての課題追求をととした、ふるさとの一員としての自己の生き方の追求
8	郡上市立相生小学校	奉仕	地域の特徴や良さに気づき、地域を愛し、自ら学び考え、自己の生き方を考える子の育成
9	郡上市立牛道小学校	安全・奉仕	家庭・地域と連携し、自分の命は自分で守る意識を高める防災教育
10	郡上市立那留小学校	安全・地域	地域のひととの関わりを通して、郷土愛、思いやりの心を育てる学校づくり
11	美濃加茂市立山手小学校	安全・健康	自他の命を尊重し、安全のための行動ができる児童の育成
12	可児市立兼山小学校	奉仕	地域の高齢者と共に明るく元気な兼山を作ろう！
13	土岐市立土岐津小学校	健康	歯と口の健康づくりの活動をととして ～自分で自分の体を守ることができる、思いを行動できる子を育てる～
14	岐阜市立長良中学校	奉仕	自ら生活を切り拓く子どもの育成 ～自尊心と主体性をもち活気ある地域や学校を目指して～
15	岐阜市立青山中学校	健康	自分の性と成長を肯定的に受け止め、夢や希望の持てる生徒の育成
16	山県市立伊自良中学校	安全・奉仕	自ら拓き輝く生徒の育成 ～挑み、繋ぎ、貢献する～
17	中津川市立蛭川中学校	健康・奉仕	生徒が主役、生徒が主体の学校を目指して
18	白川村立白川郷学園	国際親善	白川村に誇りをもち、世界へ発信できるグローバル人材の育成
19	岐阜県立揖斐特別支援学校	健康	歯・口の健康をととして、「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、生き抜く力の育成をめざす
20	岐阜県立池田高等学校	安全・奉仕	赤十字の「人道・博愛」の精神に基づき、生徒一人一人が地域社会の平和と幸福に貢献できる人格と精神を形成するための教育活動の推進

※ 選定基準
『『青少年赤十字の実践目標』により関わった内容であること』、「校種や地域に偏らないこと」、「できるだけ多くの学校にモニター校となっていたこと」等を、選定基準にさせていただきました。

ウ 活動支援関係の実績報告

① 子ども新聞プロジェクト ～子ども記者が被災地の いまを取材～ 平成29年7月15日～17日

現役の新聞記者から、取材方法や記事の書き方の指導を受けた子ども記者（岐阜県JRCからは2名参加）が、熊本震災から1年が経過した熊本市内（熊本城、熊本日赤病院、朝日新聞熊本総局等）や、益城町等の被災地を訪ね、現状と課題について取材活動をしました。

子ども記者が、一生懸命に取材してきた内容を、夜遅くまで話し合っ

て作成した記事が掲載された“子ども新聞”は、9月中旬に岐阜県、愛知県、三重県の加盟小学校のすべての児童に配布されました。

平成30年度も、小学校6年生対象に、このプロジェクトへの参加募集を行う予定です（4月中旬募集開始～5月中旬締切予定）。



▲ 熊本城の修復状況等についての取材風景

② ～モンゴル国の赤十字メンバーとの国際交流・親善～ 平成29年7月31日～8月5日



▲ 民族衣装を着てもらい、モンゴルの子たちと記念写真

岐阜県支部では、国際理解と親善を目的に、愛知県支部の青少年赤十字メンバーと共にモンゴル赤十字社との交流を行っています。

平成29年度は、岐阜県のJRC加盟校の中から選ばれた中学生2名と愛知県支部の9名が参加し、モンゴル国を訪問しました。

訪問団は、モンゴル赤十字社や血液センターの表敬訪問、モンゴルJRCメンバーとの交歓会などを通じて親交を深めることができました。

平成30年度は、7月初旬にモンゴルのメンバーが来日し、愛知県の美浜少年自然の家で宿泊体験します。このプロジェクトへの参加募集を、中学生対象に行う予定です（4月中旬募集開始～5月中旬締切予定）。

③ 救急法や水上安全法、災害図上訓練等への講師派遣

中学生や高学年児童の災害意識を高めたり、周囲の小さな子どもたちを率先して引き連れ安全な場所へ避難できるようにする事を目的として災害図上訓練（DIG）の指導を行っています。

また、水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本・水難事故防止・人工呼吸などを学んだり、海や川など着衣のまま水から自分の生命を守ることができるようにするための訓練等も行っています。

指導に当たっては、専門の訓練を受けた日本赤十字社岐阜県支部の職員やボランティア指導員等が学校に出向き、無料で指導を行います。



▲自分の住んでいる地域の危険場所を知ろう

④ 「いえまですごろく」、『まもるいのち ひろめるぼうさい』、教材教具の無料提供



▲ 「いえまですごろく」の様子

●「いえまですごろく」の整備 平成27年度～

災害が起きた時、無事に家にたどり着くためにどのように行動したら良いのか、すごろくを通して学ぶ教材『いえまですごろく』を整備しました。

この教材は、急いでゴールするのではなく、災害時の行動を考え、仲間とコミュニケーションをとりながらゴールに進む仕組みになっています。

ご希望の学校の方は、無料でお貸ししておりますので日本赤十字社岐阜県支部まで、お問い合わせください。

●青少年赤十字の防災教育について 平成27年度～

青少年赤十字では、防災教育を通じて青少年の健康と安全を守り、学校、家庭、地域における防災意識の向上を目指す「青少年赤十字防災教育事業」に取り組んでいます。

大規模な自然災害に備えるためには、未来を担う子どもたちにこそ、正しい災害の知識を伝え「自分の命は自分で守る」という防災の意識を高めてもらうことが重要です。

そのため、防災に有効な専門的な知見を数多く有している気象庁とも連携し、「いのちの大切さ」や「コミュニケーション力」を養うことのできる防災教育プログラム(教材)「まもるいのち ひろめるぼうさい」を小中高の教員と共に制作しましたので、是非ご活用ください。

平成27年度に、すべての学校に1冊ずつ配布済ですが、さらに必要な場合は、日本赤十字社岐阜県支部まで、お問い合わせいただければ無料で提供させていただきます。



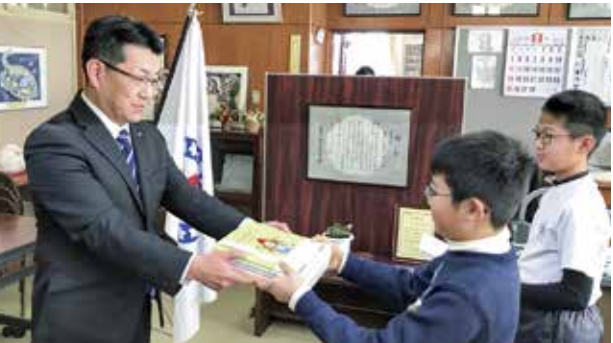
⑤ 岐阜県赤十字有功会から加盟校へ図書贈呈

平成30年2月19日

子どもたちに豊かな心を育んでもらうことや、赤十字について知ってもらうことを目的として、岐阜県赤十字有功会から青少年赤十字加盟校493校の内、平成29年度贈呈対象校117校に図書を贈呈しました。

平成30年2月19日、県内受領校を代表して、新規加盟校の土岐市立土岐津小学校（H30年度モニター校）で贈呈式が行われ、図書委員長の笹野侑玖君（6年）と副委員長の林愛翔君（6年）、に、有功会会員を代表して「株式会社十六銀行」土岐支店長 水戸浩昭様から図書が贈呈されました。（「ちきゅうのなかまたち」シリーズ 秋篠宮紀子さま訳 5冊）

代表の児童からは、「私たちは本が大好きなので、とても嬉しいです。みんなで楽しく読みます。大切にします。」とお礼の言葉がありました。



▲図書の贈呈（土岐市立土岐津小学校 校長室）



▲小学校に贈呈



▲中学校に贈呈

⑥ 募金活動

平成29年12月2日、16日

JR岐阜駅北口で岐阜総合学園高校と岐阜農林高校の青少年赤十字メンバーが、NHK海外たすけあいキャンペーンの募金活動をボランティアで実施してくれました。

冬空の下、紛争や災害、病気で苦しむ人びとを救うため、大きな声で募金の協力を呼びかけ、大勢の方の協力を得ることができました。2日間で、35,261円の募金が集まりました。

メンバーたちは、この活動を通じ、世界中の人と支え合う事の大切さを感じていました。



▲「ご協力 お願いします。」



▲「ご協力 ありがとうございます。」

⑦ 赤十字フェアぎふ作品コンクールへの参加

平成29年11月3日

加盟校から応募していただいた絵画及び書写の「作品コンクール」の表彰式を、11月3日に大垣市で行いました。

応募作品（絵画99点、書写1,862点、参加校（園）120校（園））の中から選ばれた79点の入賞作品のうち、表彰式に参加した55名に賞状を一人一人に授与しました。

会場一杯に集まった方々からは、盛大な拍手をいただいたり、授与式後には、作品の前で笑顔で記念撮影したりするなど、とても温かい表彰式となりました。

平成30年度も、数多くの作品の応募をお待ちしております。



▲ 授賞式の様子

<赤十字フェアぎふ作品紹介>



岐阜県知事賞
瑞穂市立穂積中学校
水野 杏胡 さん



岐阜県議会議長賞
大垣市立興文中学校
吉野 真衣 さん



岐阜県教育委員会教育長賞
瑞穂市立牛牧小学校
渡邊 比奈子 さん



岐阜県知事賞
輪之内町立仁木小学校
内藤 静 さん



岐阜県議会議長賞
養老町立上多度小学校 萱野 太誠 さん



岐阜県教育委員会教育長賞
大垣市立江東小学校
松本 佳奈美 さん



◆ 県内のJRCへの加盟状況について

	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	加盟校数	加盟校数	加盟校数／全校数	増減	加盟割合
幼稚園・保育園	32	33	31	-2	※
小学校	272	287	292／374	+5	78%
中学校	115	124	131／191	+7	69%
高等学校	21	22	22／81	0	27%
特別支援学校	15	17	17／21	0	81%
合計	455	483	493／667	+10	※



「青少年赤十字岐阜」

2018年4月1日発行
発行・編集 日本赤十字社岐阜県支部
〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9
TEL 058-272-3561